

ウトロ海域の海鳥と海域利用のあり方についての検討状況

1. 今年度の検討会の開催状況

- 平成 22 年 7 月 第 1 回知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会
- 平成 22 年 11 月 第 2 回知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会

2. 検討会での合意事項

- ・ウトロ海域を利用する全ての関係者（各事業者、利用者）と海鳥や自然環境にとって好ましい状態の創出と継続を目的とする（Win-Win-Win...の関係）。
- ・行政側が一方的に規制や誘導を行うのではなく、規制を作らずに海鳥保護と海域利用がうまく回って行く仕組みを目指す。
- ・行政機関、観光船事業者、シーカヤックガイド、漁業者、観光関係者など検討会構成員の全員が当事者という考えのもと協議を進めていく。
- ・検討会は、現状認識や、調査をどのように進めるかという事を相談する場である。
- ・関係各者が色々な対策をとっていることを評価しながら、今後同様なことを実施するときにモニタリング調査を行いながら進める。
- ・利用者動向調査の結果は海鳥の保護の観点だけでなく、利用のマーケティングとして有効な調査と評価された。
- ・調査やパンフレットの作成など関係者の協力を得ながら進めていく。
- ・ミニ出前講座等を企画し、より幅の広い関係者が海鳥を資源として認識し、保護と利用が両立できるような地域のボトムアップを図っていく。

3. 関係行政機関による今年度の取組

- ・ケイマフリ等海鳥の生息・生態調査の実施（平成 22 年 5 月～10 月）
- ・地元関係者・関係機関による合同乗船体験の実施（平成 22 年 7 月）
- ・利用者動向予備調査の実施（平成 22 年 9 月）
- ・ケイマフリデコイの制作（平成 22 年 3 月）

4. 今後のスケジュール

- ・平成 23 年度以降、自然状況の把握と繁殖地再生のため、海鳥の生態モニタリング調査やケイマフリデコイ設置、利用機会や質の向上のため、魅力的な航路の検討や利用者へのアンケート調査、海域の自然についてより知ってもらうための広報・普及啓発、などについて検討を進めていく予定。

5. その他

- ・本検討会については、平成 23 年 2 月 22 日の科学委員会海域WGにおいても報告がなされ、検討委員から評価を受けるとともに、保全活動（デコイの設置）についてのアドバイスがなされた。また、同 24 日の科学委員会においても検討委員より取組の紹介があり、利用と保全の両立を目指す取組として評価を得られた。